

令和7年度文京区学生と創るアグリイノベーション事業 中間報告会

新規就農の経営体から見る、 多角化経営の分析と将来展望について

東洋大学経済学部 芦谷ゼミ

報告者：押尾 那央 阿部 優斗 細田 敬斗 川村 悠真 四元 隆景

目次

- ・盛岡で学んだこと
- ・新規就農の初期費用と支援策
- ・夏イチゴと市場
- ・道の駅 ‘たみっと’
- ・今後の研究と成果目標

盛岡で学んだこと

- ・ 夏いちごの需給バランスと導入の難しさ
 - ケーキやお菓子などへの需要、参入者が少なく利益が出る
 - しかし、一株の価格が高く初期投資が高額
- ・ 地産地消と観光所化
 - 果物狩り、直売所販売が盛ん
 - 地域限定的、関東、関西圏などに広まりづらい
- ・ 新規就農者支援の拡充
 - 自治体としての融資制度、6次産業化

最初は初期投資の安い安定的な作物の栽培、
利益を安定的にあげられるようになってから、コストのかかる作物へ

マーケティングを充実させて、販売地域の拡大

新規就農における 初期費用



多額の初期費用

ex) ハウス、冷暖房、IT設備

→借入金の返済などが長期的に経営を圧迫

中古の設備を安く購入するなどの工夫が必要

求められる盛岡市の支援

- ①就農相談、就農計画の作成支援
- ②農業研修
- ③農地・機械・施設の斡旋



盛岡特産6品目 盛岡りんご 津志田芋 アロニア もりおか短角牛 黒平豆 行者にんにく

市場を意識した農業経営のポイント

- ・ **時期をずらした差別化**

通常のいちご収穫期は冬から春ですが、夏いちごは夏から秋に収穫されます。
夏いちごは供給量が少ないため需要が高く、市場の差別化につながります。

- ・ **コストと収益性の課題**

夏いちごは、栽培から収穫までのコストが高いのが特徴です。
この高いコストを抑えつつ利益を出すことが重要になります。

- ・ **ポイント**

ビニールハウスの維持費、電気代、水道代などを考慮し、高単価にする。
地域の特性を生かしたハウス栽培や水管理技術などの適切な技術を導入することで、
収益性の向上が可能になります。

夏いちごの例

- ・ **市場戦略**

高コストを吸収するため、無理をしてでも高単価を設定する。
夏いちごをより多くの人に知って食べてもらうための市場戦略として、加工食品への利用が考えられます。

- ・ **展開例**

通常、夏にいちご狩りは基本的にはできません。
夏いちごを活用し、夏いちご狩りを開始することで、新たな付加価値を提供できます。

- ・ **効率化の技術**

地域の気候に合わせたハウス栽培や水管理技術など、地域の特性を生かした農業を実践することで、効率よく栽培・収穫することができます。



効率よく野菜を栽培・収穫するための技術

地域の特性を生かした農業

→地域気候に合わせたハウス栽培や水管理技術

時期をずらして他の農家と差別化

→夏イチゴの栽培、通常冬～春だが、夏に生産可能

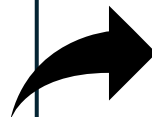
地域の特性を活かし、適切な技術を導入することで、時期の差別化が可能になり、収益性が向上

世界を意識した農業経営



輸入価格の上昇

国際情勢、物流コストの高騰により
輸入農作物の価格が上昇



国内産作物の需要上昇

消費者の地産地消意識や
品質や安全性の高さを評価



今こそチャンス

国内農業の競争化が激化され付加価値の創出もされやすい。
また地域経済の活性化にも献上する。

道の駅もりおか浜民‘たみっと’発展に向けて

- ・盛岡市の道の駅の発展を考えるにあたっては、地域の特色を生かすことが重要である。

① 二つの山を生かした建築

- ・岩手山や姫神山を望めるよう建物を配置
- ・展望デッキやガラス張りの休憩スペースで自然景観を楽しむ
- ・写真映えする観光拠点として注目

② 子どもから大人まで楽しめるまちづくり

- ・地元食材のレストランや直売所
- ・子ども向け遊具や体験型ワークショップ
- ・文化交流イベントで世代を超えた交流

→自然景観と地域文化を融合し、観光と地域活性化を両立する拠点へ



道の駅で現在行われている工夫

- ・ 石川啄木のゆかりの地なので、地元民と観光客の触れ合いの場としていい影響を及ぼす
- ・ 地元食材を使ったレストラン
- ・ 地元農家から届く新鮮な野菜やフルーツ

令和8年度終了時点の成果目標、今後の研究

成果目標

「つくる農業」のみならず、儲かる農業を目指して、プラスαに取り組もうとされている、新規就農の農業経営体を調査、農業経営体の更なる発展に向けた取り組みを支援する。

今後の研究

これまでに見学させていただいた、夏イチゴ、トマト＋冬イチゴ、りんご＋観光からの学びを、**新規就農支援のための具体策**として成就させたい。

- ・コスト計算をより簡単に、手早くできる雛型はないか。

学生の思考力を生かす

- ・レベニュー向上のための販促の工夫ができないか。

学生の発信力を生かす

- ・体験型の付加価値を創出できないか。

学生の着想力を生かす

これらの実現には、課題も多いかと思います。行政に携わられる盛岡市の皆様、農業の現場にあられる皆様と共に、新しい支援の形を考えさせていただけると幸いです。